

## 第2章 長野市の文化財

### 1 文化財に関するこれまでの調査

これまでに本市域で実施された行政や大学等研究機関による文化財調査の主なものは下表のとおりである。

文化財調査・調査報告書名	実施年度・刊行年	実施主体	概要
『長野県民俗調査10 松代町の民家』	1970年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民家緊急調査」の一環として実施。武家屋敷9棟、町家3棟、城絵図等を調査。
『裾花溪谷の民俗－裾花川ダム水没地区民俗資料緊急調査』	1971年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗資料緊急調査」の一環として実施。
『戸隠－総合学術調査報告』	1971年	戸隠総合学術調査実行委員会	1963年から3か年にわたって戸隠山の歴史・美術・建築・考古・民俗・地理・地質・動物・植物各分野を対象にした総合的な学術調査を実施し、1971年に調査成果を取りまとめた報告書を刊行。
長野市石造文化財調査	1977年～1982年	長野市教育委員会	「郷土を知る会」に委託し、悉皆調査を実施。『長野市の石造文化財』第一集～第五集にまとめ、刊行。
『北国街道－歴史の道調査報告書Ⅲ』	1980年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『善光寺道－歴史の道調査報告書Ⅳ』	1981年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
長野県近世社寺建築緊急調査	1981年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近世社寺建築緊急調査」の一環として実施。長野市域（長野市・豊野町・信州新町・戸隠村・鬼無里村・中条村・大岡村）の近世社寺52ヶ所の把握。そのうち14社寺の詳細調査。
『庭園都市松代 伝統的建造物群保存対策調査報告書』	1982年	長野市教育委員会・東京大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向けた地域調査を実施。
『長野県民俗文化財分布調査報告書』	1984年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗文化財分布調査」の一環として実施。
『長野県の民謡－民謡緊急調査報告書』	1984年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民謡緊急調査」の一環として実施。
『裾花川通り大町道－歴史の道調査報告書Ⅳ』	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『土尻川通り大町道－歴史の道調査報告書Ⅴ』	1985年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『長野市松代三町水路活性化についての調査報告書』	1985年	信州大学工学部	松代町の水路網・水源地の調査。
『戸隠道－歴史の道調査報告書Ⅵ』	1986年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
『中条村の石造文化財』	1988年	中条村教育委員会	旧村時代に実施した中条地区の石造物悉皆調査の報告書。
『保科道－歴史の道調査報告書Ⅷ』	1989年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「歴史の道事業」の一環として実施。
長野県近世社寺建築第二次調査	1990年	長野県教育委員会	長野市域の15社寺を調査。
『長野県の諸職－長野県諸職関係民俗文化財調査報告書』	1990年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
『千曲川－歴史の道調査報告書Ⅸ』	1991年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。
『犀川－歴史の道調査報告書Ⅹ』	1992年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「諸職関係民俗文化財調査」の一環として実施。

文化財調査・調査報告書名	実施年度・刊行年	実施主体	概要
『鬼無里の石仏』	1994年	鬼無里村教育委員会	旧村時代に実施した鬼無里地区の石造物悉皆調査の報告書。
『むしくら一虫倉山系総合調査研究報告一』	1994年	虫倉山系総合調査研究会	1987年～1994年にかけて、長野市・旧戸隠村・旧鬼無里村・旧中条村・小川村が共同で、虫倉山に関わる人文・自然分野の総合調査を実施し、報告書を刊行。
『長野県の民俗芸能一長野県民俗芸能緊急調査報告書』	1995年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「民俗芸能緊急調査」の一環として実施。市域では松代地区の大門踊り、安茂里地区の犀川神社太々神楽、戸隠地区戸隠神社の太々神楽が詳細調査の対象となっている。
伝統的祭り・行事・民俗芸能等の調査	1999年	長野市教育委員会文化課	旧長野市域で行われている民俗芸能等の実態把握を目的に地域公民館へアンケート調査を実施。伝統的祭り・行事・民俗芸能、合わせて267の事例を把握。獅子舞については50の事例を把握。
『戸隠村の石造文化財』	2004年	戸隠村教育委員会	旧村時代に実施した戸隠地区の石造物悉皆調査の報告書。
善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査	2004年～2008年	長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け善光寺本堂を含め本坊、宿坊群、仲見世、門前商家、周辺寺院の悉皆的建造物調査を実施。
『長野県の近代化遺産』	2009年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代化遺産（建造物等）総合調査」の一環として実施。市域では善光寺門前の醸造や善光寺門前の商家、長野県庁舎、松代大本営跡などが取り上げられている。
『大岡の石仏：大岡地区石造物調査報告書』	2011年	長野市立博物館	旧大岡村の石造物悉皆調査。
長野市戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査	2014年～2015年	長野市教育委員会文化財課・信州大学工学部	文化庁の補助事業「伝統的建造物群保存対策調査」の一環として、伝統的建造物保存地区制度の導入に向け戸隠神社を中心に形成された門前町の悉皆的建造物調査を実施。
『松代城下町庭園調査報告書』	2015年	長野市教育委員会文化財課・信州大学農学部	松代地区の庭園・水路網の調査。
『長野県の近代和風』	2018年	長野県教育委員会	文化庁の補助事業「近代和風建築総合調査」の一環として実施。
地域のお祭り調査	2018年	長野市文化スポーツ振興部文化芸術課	長野市域内で結成されている神楽保存会256団体（うち13団体は活動中止中）を把握。

※このほかに埋蔵文化財調査が169件あり

## 2 地域計画の作成に伴う調査

本計画の作成に伴い、既往資料調査・現地調査・アンケート調査を実施した。

### (1) 既往資料調査

ア 先に挙げた文化財調査の報告書を含めた長野市域に関わる郡史・地域誌、住民自治協議会や自治会などが発行した自治会誌(史)、郷土雑誌等に掲載された歴史学・民俗学・考古学及び建築・街並み・民話・自然・災害等の調査研究成果といった文献を収集した。(計 2,024 点)

イ 国県市指定文化財、遺跡全件一覧表、地域伝統芸能一覧(文化芸術課作成)、地域のお祭り(文化芸術課作成)のほか、上記アの文献から抽出される文化財のリストを統合して 32 地区別に分けた(指定・未指定を含めた文化財 4,656 件、地区別種別件数は下表参照)。ただし、未指定の文化財については所在の確認までには至っていないものが多いため、計画作成後に確認調査を進めていく必要がある。

長野市 32 地区文化財リスト (地区別種別件数)

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計			
	建造物	美術工芸品							有形の民俗文化財		無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物							
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料			歴史資料	風俗習慣						民俗芸能						
第一	13			1				129		9		5	10	6										173
第二	24	33	10	10	1			198	1	2	1	10	8	5	2		1							306
第三	1							53				5	1	1										61
第四	5		2	1				37	1	4		3	1	1										55
第五	2		1	1				7		5		2		3										21
芹田	8		4					66	2				20	8										108
古牧	24	5	5			3		5		2			43	9	5		13							114
三輪	1							47					2	4	1									55
吉田	3	2						9		1			11	6	2		1							35
古里	22							15					7	7	7		1							59
柳原	8							17				1	5	4										35
浅川	3							7					18	7	4					1				40
大豆島	10							19			1			4	4									38
朝陽	1							18		1			9	8										37
若槻	61		16					27		3		1		9	18		1							136
長沼	26	3	2			2	2	24					3	7	6	15	3							93
安茂里	15	3	28	2	1			119	6	20			16	6	4									220
小田切	51		6					42	1				2			8	18		5					133
芋井	7		16					19		2			27	7	2		9							89
篠ノ井	57	1	8				1	114	12	22			24	29	8		2							278

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物					伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計
	建造物	美術工芸品							有形の民俗文化財		無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物				
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料			歴史資料	風俗習慣						民俗芸能			
松代	182	21	20	12	4	1	129	1	28	3	1	23	12	24	8	3	2				474
若穂	107	4	57	2	1		120	4	15		3	29	24	4	2	2	1	1			376
川中島	26		4		1		87		2		1	21	20	3							165
更北	49	7	6	1			150	1	1		1	19	14	5		2					256
七二会	18		3				112					4	9	1		4					151
信更	66		6		5		30		1			50	2	1							161
豊野			3	1	1		94	3	1	2	7		8	6	1	5		1			133
戸隠	38		8	2	2		1		4	1		6	22	13	1	9	1	2	1		111
鬼無里	37	3	8	6			107		6			1	10	4	2	13	2	11			210
大岡	38		3			1	85		4			4	4	1	1	3					144
信州新町	5		223						1				5	3	1	1		4			243
中条	5	1	128										6	3		2		1			146
計	913	83	567	39	21	5	1887	33	133	8	40	364	268	131	39	93	6	26	1	0	4656

※空欄は物件なし (= 0 件) を示す



## (2) 現地調査(令和3年度～5年度)

地域計画作成後の文化財把握調査を見据え、モデルケースとして市立博物館を中心に善光寺(第二地区)周辺地域における仏教美術及び祭礼調査を実施した。調査結果については計画作成後、市立博物館の展示あるいは報告書等で公開する予定である。

### ア 仏教美術調査

善光寺の周辺には数多くの寺院が存在するが、仏教美術に関してはこれまで悉皆調査が行われてこなかった。そのため市立博物館を中心に、外部からの有識者の協力を得ながら、3年間で悉皆的な調査を実施した。調査対象とした寺院は善光寺大勧進(第二地区)を中心に、善光寺にゆかりがある往生寺(第一地区)・仏導寺(芹田地区)・無常院(安茂里地区)・正覚院(安茂里地区)・長谷寺(篠ノ井地区)・常行寺(川中島地区)・今里阿弥陀堂(川中島地区)・観音寺(第五地区)等で、平安から鎌倉期制作の仏像が新たに複数確認されるなどの成果が見られた。

### イ ながの祇園祭調査

現在、毎年7月に行われているながの祇園祭は、善光寺周辺の町を中心として行われ、「善光寺祇園祭」、「弥栄神社御祭礼」等と呼ばれてきた屋台の巡行を伴う祭礼であり、通称「御祭礼」と呼ばれている。江戸時代より続く祭礼であるが、戦後に一時途絶え、その後「ながの祇園祭」として復活した。

「御祭礼」についてはこれまでも研究調査が行われているが、祭り総体を捉えた本格的な調査はされてこなかった。本調査では調査成果の活用により善光寺周辺地域の活性化や研究の発展に寄与することを目的とし、祭礼の中断から「ながの祇園祭」として復活した経緯や、現在の御祭礼の状況について重点的に調査をおこなった。

## (3) アンケート調査

### ア まちづくりアンケート調査

まちづくりアンケートは、市政に対する市民ニーズ、市が実施する事業に対する考え方、意見、優先度などを調査し、今後の施策の基礎資料とするため毎年実施しているものであるが、このアンケートで令和3(2021)年に「長野市における文化財の保存と活用をめぐる状況について」の設問を設定し、文化財に対する市民の意識調査を実施した。

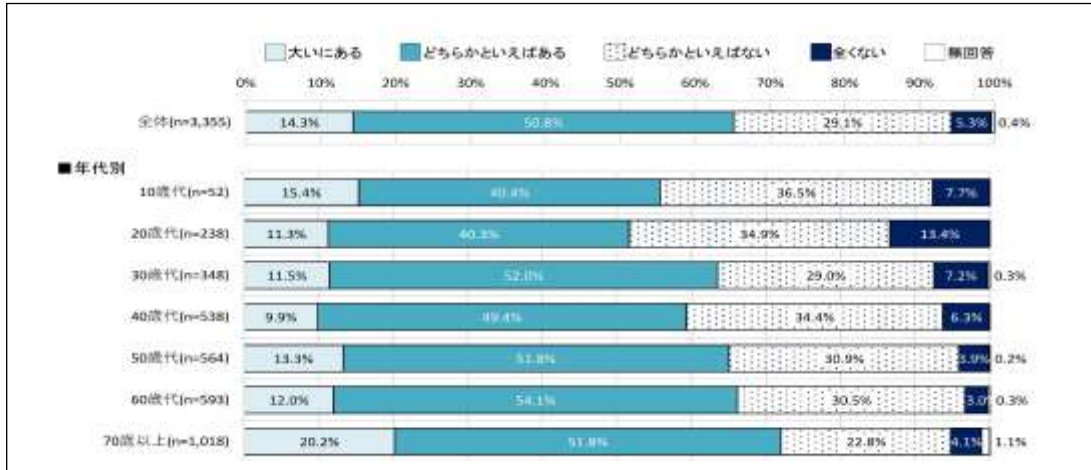
アンケートは市内在住の18歳以上の男女で、住民基本台帳から無作為に抽出した5,000人を対象に行い、3,355人から回答を得た。

上記の設問について以下の五つの質問事項を設定した。回答方法はいずれも選択肢を選ぶ方式とした。

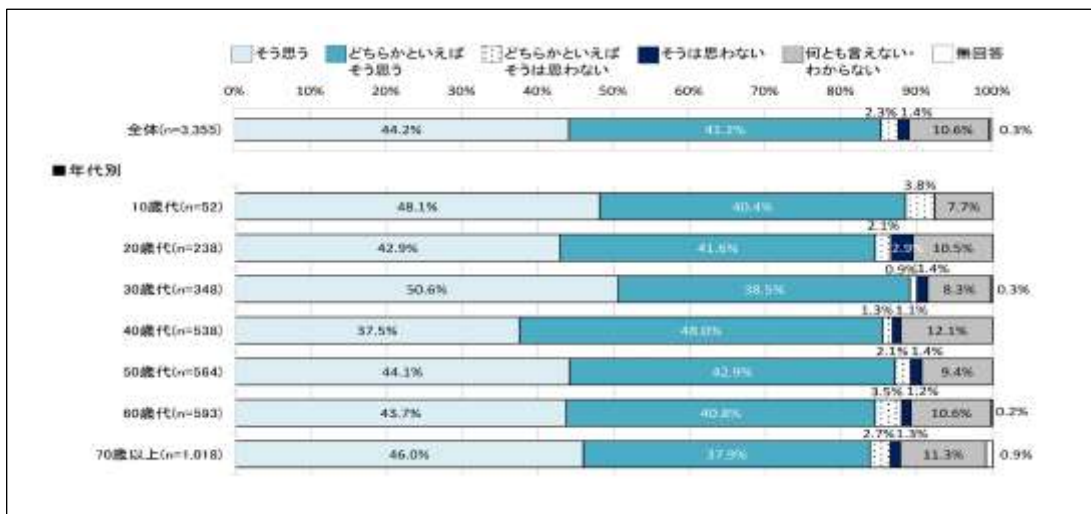
1. あなたは、長野市の歴史や文化について関心がありますか
2. あなたは、長野市の歴史や文化を保存・活用することは、重要だと思いますか
3. あなたは、長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があると思いますか
4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で、あなたが、協力できそうなことは何ですか
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施したほうが良いと思うことは何ですか

アンケート結果は次の通りである。

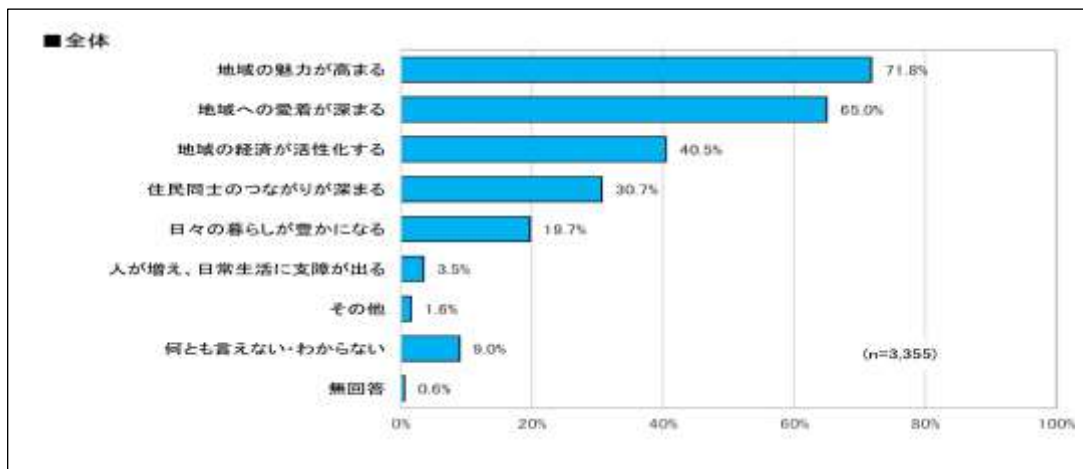
1. 長野市の歴史や文化について関心があるか聞いたところ、関心がある人は回答者の3人に2人の割合にのぼった。ただ年代別にみると 20 歳代では半数近くが「関心がない」と回答した。



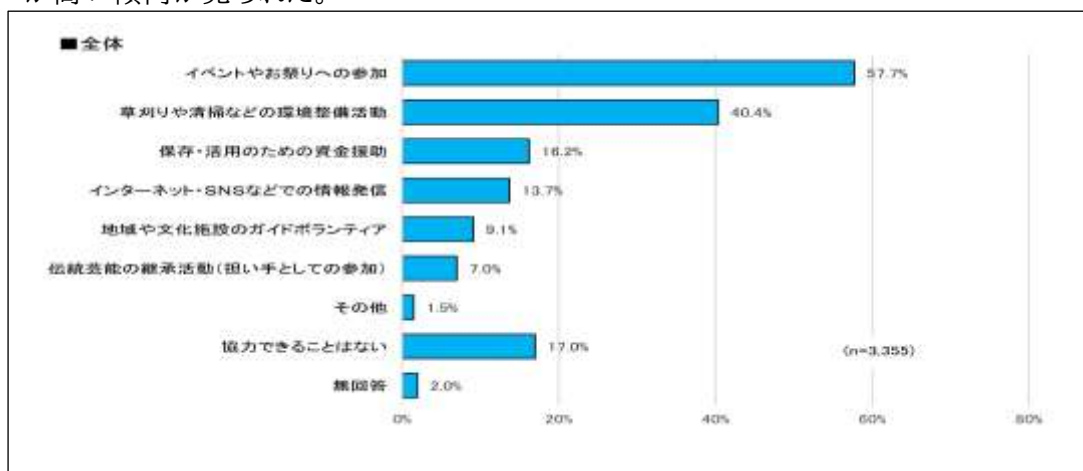
2. 長野市の歴史や文化を保存・活用することが重要であるか聞いたところ、重要であると思っている人は 85.4%と大半を占めた。



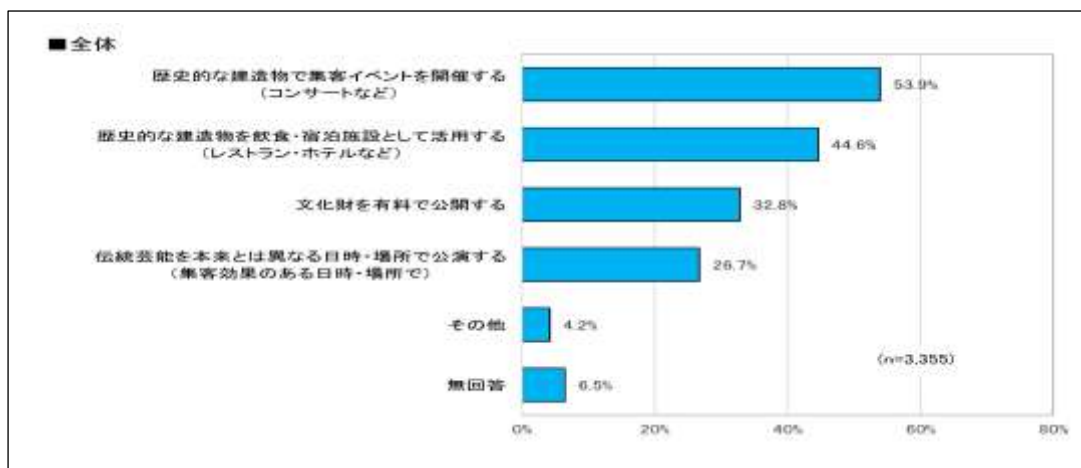
3. 長野市の歴史や文化を活用することで、どのような効果や影響があるか、三つ以内で挙げてもらったところ以下のような順になった。



4. 長野市の歴史や文化を保存・活用する上で協力できそうなことは何か、複数回答で聞いたところ、以下のような順になった。年代別では、10歳代で「イベントやお祭りへの参加」が高く、10歳代から30歳代の若年層では「インターネット・SNSなどでの情報発信」が高い傾向が見られた。



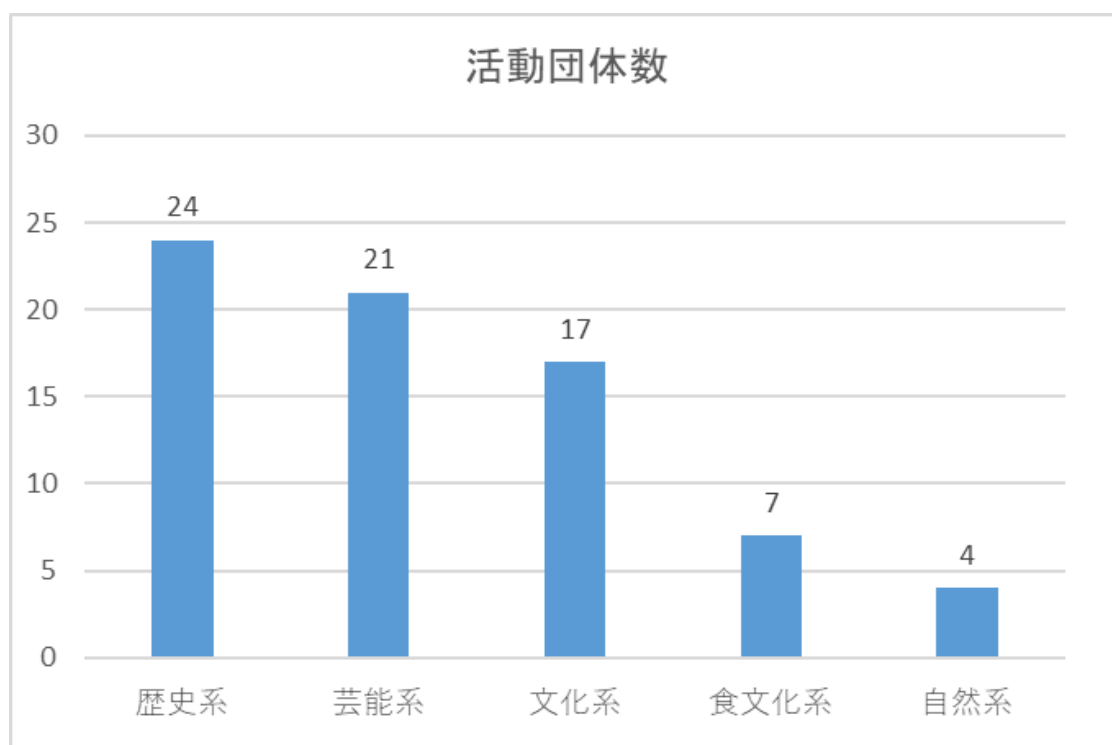
5. 長野市の歴史や文化の活用方法として、実施した方が良くと思うことは何か、二つ以内の複数回答で聞いたところ以下のような順となった。



全般的に長野市の歴史文化に関心があり、その保存・活用が重要であると考えている人が大半にのぼること、そのなかで歴史文化を活用することが地域の活性化につながると考えている人が多いことが分かった。また、回答者の半数が歴史文化の保存・活用にあたって何らかの形で協力ができると考えていることが分かった。

## イ 市立公民館・交流センターアンケート調査

地域計画作成後の文化財保存活用にあたって、様々な場面で連携が想定される文化財に関わる活動団体の把握のため、市立公民館・市交流センター29館にアンケートを実施し、各館で把握している活動団体の名称と人数についての情報提供を依頼した。その結果、古文書解読や史跡調査等を行っている歴史系の団体が24、甚句や太鼓などを実演している芸能系の団体が21、俳句や美術系の活動を行っている文化系団体が17、郷土料理の保存活動をしている食文化系の団体が7、天然記念物の保護活動や山城のトレッキングコース整備等の活動を行っている自然系の団体が4の合計77団体を把握することができた。



### 3 長野市の文化財の概要

#### (1)文化財保護法等による指定等文化財

市域に所在する文化財のうち、文化財保護法及び長野県文化財保護条例、長野市文化財保護条例に基づき、指定・選択・選定・登録を受けている文化財は、令和7年10月1日時点で548件を数える。このほかに重要美術品が6件ある。

類型		国指定・選定	国選択	県指定	市指定・選定、( )は名勝・天然記念物	市選択	国登録	合計	
有形文化財	建造物	8	/	11	65	/	141	225	
	美術工芸品	絵画	2	/	2	9	/	0	13
		彫刻	15	/	8	27	/	0	50
		工芸品	3	/	7	15	/	0	25
		書跡・典籍	2	/	2	2	/	0	6
		古文書	0	/	0	10	/	0	10
		考古資料	0	/	1	12	/	0	13
		歴史資料	1	/	0	3	/	0	4
無形文化財		0	0	0	7	0	0	7	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	/	1	14	/	0	15	
	無形の民俗文化財	0	1	4	9	8	0	22	
記念物	遺跡	6	/	5	46	/	0	57	
	名勝地	0	/	1	4(1)	/	8	13(1)	
	動物、植物、地質鉱物	1	/	16	69	/	0	86	
文化的景観		0	/	/	/	/	/	0	
伝統的建造物群		1	/	/	/	/	/	1	
文化財の保存技術		0	/	0	1	/	/	1	
合計		39	1	58				548	
					293(1)	8	149		
その他		国		県		市			
重要美術品		6		/		/			
※制度がないものは「/」で表した								令和7年10月1日現在	

## ア 有形文化財（建造物）

建造物は国指定では国宝が1件、重要文化財が7件、県宝が11件、市指定が65件、国登録が141件となっている。

指定されている建造物の地区別分布は右図のようになる。松代地区、鬼無里地区、第一地区から第五地区に多い。

国宝は1件で、第二地区の善光寺本堂が指定されている。重要文化財は7件で、このうち第二地区の善光寺三門と善光寺経蔵は善光寺本堂と同じ境内に建つ江戸時代中期の建物である。また松代地区の真田信之霊屋と真田信重霊屋は松代真田家初代藩主とその三男の位牌を祀った建物で、旧横田家住宅は松代藩士の武家屋敷である。このほか鬼無里地区の白髯神社本殿と芋井地区の葛山落合神社本殿が重要文化財となっている。

県宝は11件のうち7件が松代地区に集中している。このうち皆神山の熊野出速雄神社本殿は中世の熊野系修験を伝える貴重な建築遺構である。また大英寺本堂は真田信之夫人小松姫の霊屋、林正寺本堂は真田家二代藩主信政の霊屋、長国寺開山堂は真田家三代藩主幸道の霊屋を利用したものであり、長国寺境内の四代藩主真田信弘霊屋と合わせ真田家の霊屋群が指定されている。このほか旧前島家住宅は現存する松代藩武家屋敷のなかで最も古い年代に属する建物であり、開善寺経蔵は真田家の祈願寺の建物である。次に数が多いのが芋井地区の3件だが、うち明治8(1875)年に建てられた旧長野県師範学校教師館と、明治37(1908)年に建てられた旧ダニエル・ノルマン邸はもと第四地区にあったものを、昭和46(1971)年に芋井地区に移設したものである。残る1件の葛山落合神社境内諏訪社社殿は室町時代後期に建てられた神社建築物として指定されている。戸隠地区にある南方神社本殿も室町時代後期の建造物として県宝に指定されている。



国宝 善光寺本堂



重文 真田信之霊屋

市指定は65件で、このうち最古のものは篠ノ井地区にある平安時代の石造多層塔で、次いで松代地区の石幢（笠仏）が鎌倉時代のものとされる。また南北朝から室町時代にかけて造立された石造宝篋印塔が3件（若穂川田、七二会、第二地区）指定されている。

木造では江戸時代以前の建造物として、浅川地区の諏訪神社本殿が建築様式から室町時代頃のものとしてされる。

江戸時代のものとしては、社寺（古牧地区守田の神社本殿、鬼無里地区松巖寺経蔵・観音堂・鎮守堂など）、武家住宅の表門（松代地区旧白井家表門など）、鐘楼（旧松代藩鐘楼など）、武家住宅（松代地区旧樋口家住宅）、霊屋（松代地区大鋒寺真田信之霊屋）、石造物（吉田地区の中越の庚申塔など）など、明治以降のものでは神社建築（鬼無里地区の荒倉山神社本殿、大岡地区の塩竈神社など）が多くを占め、そのほかに学校建築（更北地区の旧作新学校本館）と商家（松代地区の旧金箱家住宅）が指定されている。

国の登録有形文化財141件は江戸時代後半から明治時代のものが大部分を占める。地区別で見ると松代地区（寺社、店舗、個人住宅など）や、第一から第五地区（旅館、店舗など）に集中している。

## イ 有形文化財（美術工芸品）

美術工芸品は国指定では重要文化財が23件、重要美術品が6件、県宝が20件、市指定が78件となっている。

【絵画】重要文化財が2件、県宝が2件、市指定が9件で、地区別分布は右図になる。

重要文化財では、鎌倉時代末期から室町時代初期の制作とされる第二地区善光寺大本願所蔵の絹本著色阿弥陀聖衆来迎図が県下に伝存する浄土教来迎図の中では最古のものである。また、



市指定 石造多層塔



市指定 旧作新学校本館



鎌倉時代前期の作と考えられる若穂地区清水寺の絹本着色両界曼荼羅図が県下における曼荼羅の最佳品として指定されている。

県宝では、善光寺大勧進が所蔵する絹本着色釈迦三尊像が県内では遺例が少ない鎌倉時代に遡る仏画である。また、善光寺淵之坊に残る室町時代制作とされる絹本着色善光寺如来絵伝3幅は、数少ない中世の善光寺如来に関わる絵伝であるとともに、絵解き図として実際に善光寺信仰流布に利用されていたことがわかる貴重な文化財である。

市指定では、いずれも江戸時代の制作で絵解きに利用されたとみられる長沼地区西巖寺の絹本着色鬼女紅葉狩の図と蓮如上人絵伝や、吉田地区善敬寺の絹本着色親鸞聖人絵伝4幅などがある。

【彫刻】重要文化財が15件、県宝が8件、市指定が27件で地区別分布は次頁の図になる。

重要文化財のうち若槻地区の銅造観音菩薩立像は白鳳時代のもので市内の仏像の中で最も古いものである。若穂地区の清水寺にある木造聖観音立像ほか4件6軀の木造仏は、清水寺が大正5(1916)年の火事で焼失した後、再建時に奈良県から迎えた仏像で、いずれも平安時代から鎌倉時代初頭の作である。このほか、松代地区清水寺の木造千手観音菩薩立像ほか2軀、七二会地区の木造観音立像、信更地区観音寺の木造十一面観音立像が平安時代の木造仏である。また善光寺の金銅阿弥陀如来及両脇侍立像3軀は、江戸時代に江戸、京都、大坂をはじめ全国に出開帳をした際の開帳仏であり、現在も善光寺御開帳の際には前立本尊として公開されている。

県宝では、中条地区正法寺の木造聖観音菩薩立像ほか2軀、安茂里地区正覚院の木造伝観音菩薩立像など平安時代から鎌倉時代にかけての仏像8件(12軀)が市内に所在している。

市指定では、平安時代の作で川中島地区唯一の指定文化財である切勝寺の聖観音



県宝 善光寺如来絵伝



重文 銅造観音菩薩立像

菩薩立像や、同じく平安時代の作である第二地区世尊院の木造毘沙門天像のほか、明治初頭の廃仏毀釈によって戸隠山奥院の仁王堂から寛慶寺（第二地区）に移された木造金剛力士像などがある。

【工芸品】重要文化財が3件、県宝が7件、市指定が15件となる。

重要文化財としては奈良時代から平安時代初期のものとされる戸隠神社の牙笏、平安時代のものとされる若穂地区清水寺の鉄鍬形（長野市立博物館寄託）などがある。

県宝となっている松代地区玉依比売命神社所蔵の児玉石は、毎年1月7日に神社で行われる児玉石神事の際に用いられる。神事では神社所蔵の玉石類の数を数え上げ、その増減で年の吉凶を占うが、この玉石類のうち591顆が指定されている。

市指定のうち鬼無里地区にある4基の山車と2基の神楽は、現在の新潟県糸魚川市市振出身の宮大工北村喜代松によって幕末から明治時代初期にかけて製作されたもので、いずれにも精緻な彫刻が施されている。

【書跡・典籍】重要文化財2件、県宝2件、市指定2件を数える。このうち重要文化財の紙本墨書法華経残闕（平安時代末期―鎌倉時代）、県宝の戸隠山頭光寺流記（室町時代）はいずれも戸隠神社所蔵のもので、古くから戸隠山が信仰対象の山であったことを示す文化財である。

県宝ではほかに松代地区真田宝物館所蔵の真田家文書が真田家初代の幸綱（幸隆）以来真田家に代々伝来した文書として指定されている。市指定には同じく真田宝物館所蔵の佐久間象山筆桜の賦と豊野地区鷲寺諏訪神社所蔵の鷲寺諏訪社奉納俳額（長野市立博物館寄託）がある。

【古文書】古文書は市指定のみで10件を数える。このうち更北地区に残る「文禄四年中氷鉦村下氷鉦村御検地帳」は豊臣秀吉による太閤検地の検地帳である。

【考古資料】県宝1件、市指定12件を数える。県宝の伝川柳將軍塚古墳出土品は、

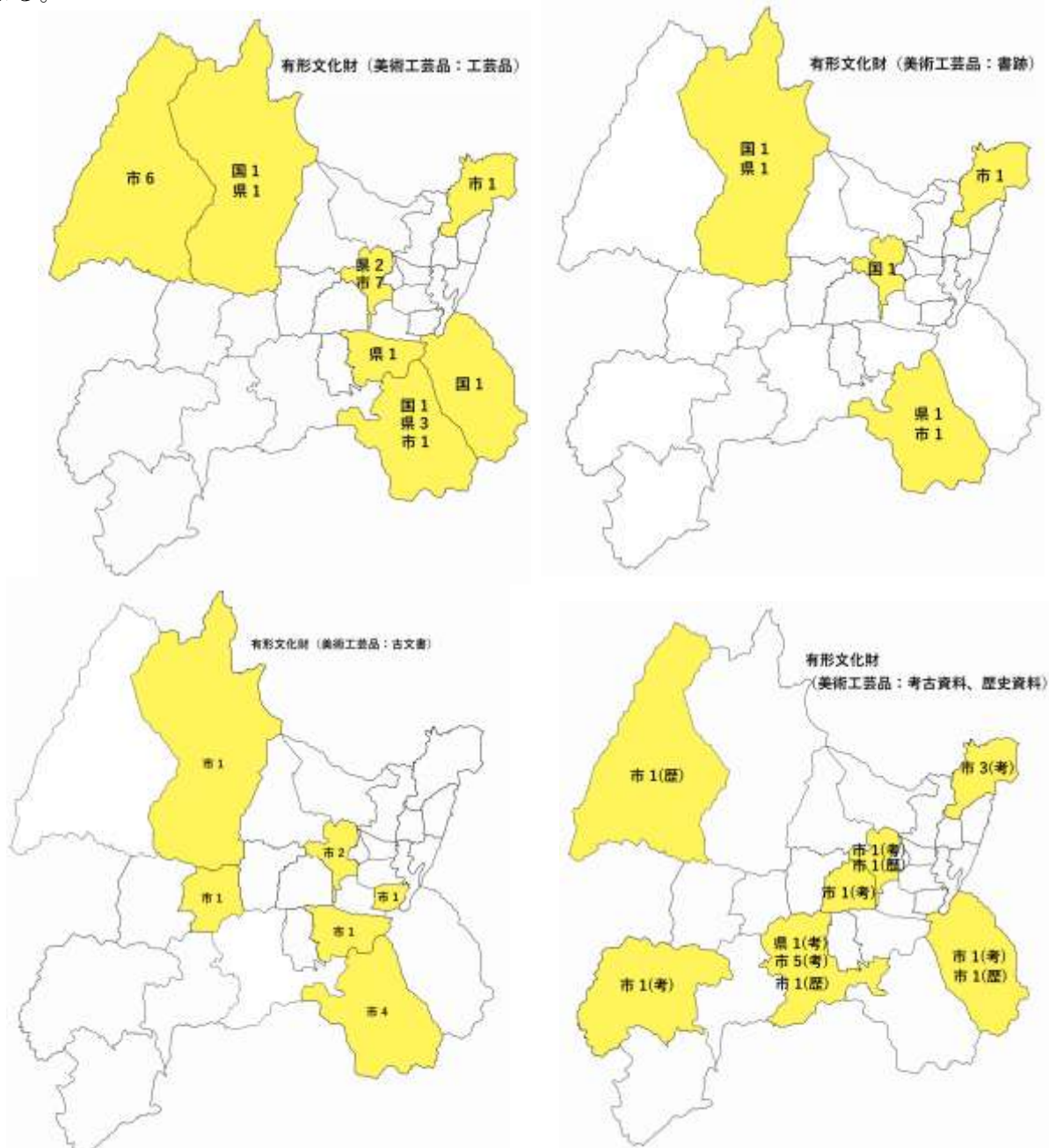


重文 鉄鍬形

篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳から江戸時代に発掘された鏡・勾玉・管玉など（長野市立博物館寄託）で、篠ノ井地区上石川の布制神社に伝わったものである。市指定では川柳将軍塚古墳の陪塚から発見された埴輪田筒棺や、豊野地区の南曾峯古墳から出土した直刀などがある。

【歴史資料】重要文化財1件と市指定3件を数える。重要文化財の善光寺造営図は、室町時代享禄4（1531）年の善光寺再建にかかわる門その他付属建物の設計図であり、作図年代がわかる設計図としては現存最古のものである。市指定には鬼無里地区の松巖寺観音堂算額や篠ノ井地区有旅の高札板などがある。

なお、美術工芸品のうち絵画・彫刻以外の指定文化財の地区別分布は下図のようになる。



## ウ 無形文化財

無形文化財は市指定7件を数える。

このうち善光寺木遣りは、江戸時代の善光寺再建の際に、江戸棟梁によって伝えられたものとされ、現在でも建築行事等で唄い継がれている。また八橋流箏曲は江戸時代初期に八橋検校が創始した琴の流派で、八橋検校に直接学んだ真田家2代藩主側室のお伏によって松代に伝えられたものである。このほか松代地区の大門踊りや戸隠地区の宣澄踊りなどが指定されている。



## エ 民俗文化財

【有形の民俗文化財】県宝1件、市指定14件を数える。

県指定の小正月関係資料コレクションは、市内外の小正月行事で用いられる道具を長野市立博物館が収集したものである。

市指定には真田宝物館が所蔵する江戸時代の松代焼コレクションや第四地区の妻科と吉田地区の中越に残る庚申講人別帳及び用具一式（長野市立博物館寄託）、善光寺の祇園祭で曳航されていた第一地区西町上組の山車（長野市立博物館寄託）、善光寺の正月行事用具などがある。善光寺の正月行事用具は、善光寺で年末年始にかけて行われる堂童子行事で使用される一連の道具である。



市指定 善光寺木遣り



市指定 山車



【無形の民俗文化財】国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）1件、県指定4件、市指定9件、市の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（市選択）8件の計22件を数える。

国選択の若穂地区高岡たかおかの小豆焼き行事あずきやぎょうじは、正月15日集落の集会所で、囲炉裏の火で熱したカワラケに小豆を載せ、小豆の動きで年の吉凶を占う予祝行事で、道祖神信仰どうそじんしんこうと関わって行われる。

県指定となっている大岡地区あしのじりの芦ノ尻あしのじりの道祖神祭りみちのそじんまつりと、篠ノ井地区はせのいの長谷及び越およこしのドンドヤキも道祖神信仰に基づく小正月行事である。県指定ではこのほか戸隠神社とがくしんじやだい太神楽たいかぐらと犀川神社さいがわじんじやの杜煙火もりほなびがある。犀川神社の杜煙火は、安茂里地区犀川神社の秋祭りの際に、境内で行われる壮大な仕掛け花火である。

市指定及び選択では、市内各所で行われる獅子神楽ししかぐらのうち、安茂里地区の犀川神社太神楽たいかぐらや若穂地区あかのたじんじやの赤野田神社太神楽あかのたじんじやなど代表的なものが8件選ばれている。このほか年中行事として松代地区たまより玉依比売命神社ひめのみことじんじやの御田祭おんたさい・児玉石神事こだまいししんじ・御判神事ごはんしんじや、篠ノ井地区ひがしよこたの東横田いぬいしと犬石で行われる虫送り行事などがある。玉依比売命神社の行事は正月6日・7日にわたって行われる一連の予祝行事で、東横田と犬石の虫送りは7月末から8月初頭に行われる稲の害虫除けまじなの呪い行事である。



国選択 高岡の小豆焼き行事



県指定 芦ノ尻の道祖神祭り

## オ 記念物

【遺跡】国指定6件、県指定5件、市指定46件を数える。

国指定の史跡は、篠ノ井地区にある川柳將軍塚古墳・姫塚古墳（古墳時代前期）、松代地区はにしなの埴科古墳群あにのこふんぐん土口將軍塚古墳どくちしやうぐんづかこふん（古墳時代中期）、松代地区おおむろ大室古墳群おむろこふんぐん（古墳時代中期から後期）など3件の古墳のほか、松代地区にある松代城跡まつしろじやうあつたけたりしんごてんあと附新御殿跡、

松代藩主真田家墓所、旧文武学校といった松代藩ゆかりの史跡3件である。

県指定のうち、松代地区にある菅間王塚古墳と桑根井空塚の2件は合掌形石室を有する古墳、戸隠地区の戸隠神社奥社・中社・宝光社からなる戸隠神社信仰遺跡は戸隠山の信仰の歴史を伝える場所として指定されている。このほか戦国時代に武田信玄が馬場信房に築かせた信州新町地区の牧之島城跡や、松代地区に残る佐久間象山宅跡が県指定になっている。

市指定は、縄文時代の集落遺跡である中条地区の宮遺跡、古墳時代の祭祀遺跡である古里地区の駒沢祭祀遺跡のほか、古墳（篠ノ井地区の中郷神社前方後円墳、松代地区の竹原笹塚古墳など）、山城（豊野地区の大倉城跡、芋井地区の葛山城跡など）、宗教施設跡（豊野地区の神護寺跡、戸隠地区の奈良尾弘法遺跡など）、善光寺参道（敷石）などがある。

【名勝地】県指定が1件、市指定が4件（うち1件は名勝・天然記念物）、国登録が8件となっている。

県指定は鬼無里地区の奥裾花峡谷で、市指定は信州新町地区の久米路峡など3件に加え、名勝と天然記念物を包括した大岡地区樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落がある。



市指定 樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落



国史跡 松代城跡附新御殿跡



国の登録記念物は8件で、全て松代地区の泉水路<sup>せんすいり</sup>を構成する武家住宅などの庭園（旧山寺常山氏庭園<sup>やまでらじょうざんしえていえん</sup>など）である。

【動物・植物・地質鉱物】国指定1件、県指定16件、市指定が69件を数える。

国指定は、芋井地区の素桜神社<sup>すざくらじんじや</sup>の神代ザクラ。県指定は樹木（戸隠神社奥社社叢<sup>じんだい</sup>など）のほか、市域の大地の形成を物語る化石類（戸隠川下のシンシュウゾウ化石、信州新町地区菅沼<sup>すがぬま</sup>の絶滅セイウチ化石など）や、地質標本（若穂地区大柳<sup>おおやなぎ</sup>及び井上<sup>まくら</sup>の枕状溶岩<sup>じょうようがん</sup>、鬼無里地区深谷沢<sup>ふかやさわ</sup>の蜂の巣状風岩）などがある。

市指定には、戸隠地区のカワシンジュガイ、松代地区皆神山のクロサンショウウオの産卵池、明徳寺<sup>めいとくじ</sup>のヒキガエル産卵池といった動物、芋井地区の葛山落合神社社叢、吉田地区の吉田のイチョウ、戸隠地区戸隠中社の三本杉などの樹木、鬼無里地区奥裾花のケスタ地形、漣痕<sup>れんこん</sup>（リップルマーク）といった地質関係のものなどがある。

## カ 伝統的建造物群

戸隠地区の中社及び宝光社地区には、戸隠信仰のもとに多くの参詣者を受け入れるために大規模化した宿坊や、門前町を形成した民家などの伝統的建造物が江戸時代以前からの町割りのもとに群として残されており、長野市戸隠伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区）として歴史的町並みの保護を図っている。

## キ 文化財の保存技術

市選定保存技術になっている桐原牧神社<sup>きりはらまきじんじや</sup>の藁馬づくりは、吉田地区桐原牧神社で春祭りの際に奉納・頒布される藁馬の製作技術で、現在も地元の保存会が記録の作成や



国天然記念物 素桜神社の神代ザクラ



長野市戸隠伝統的建造物群保存地区

伝承者の育成などを行い、技術の保存に努めている。

### ク その他（重要美術品）

重要美術品は絵画2件、彫刻1件、工芸品2件、書跡1件の計6件を数える。善光寺の境内にあり、ぬれ仏の名で親しまれている銅造地蔵菩薩坐像や、同じく善光寺境内に建つ鐘楼の銅鐘、北野美術館（若穂地区）所蔵の圓山應舉筆絹本着色中壽老左右鴛鴦図などがある。



市選定 桐原牧神社の藁馬

## （2）未指定文化財

### ア 文化財保護法以外の法律等で指定されている文化財

未指定文化財のなかには以下のように、文化財保護法や文化財保護条例以外の法令等により保存の対象とされているものもある。

#### 【歴史的風致形成建造物】

長野市歴史的風致維持向上計画で定められた重点区域における歴史的風致の維持及び向上を図る上で重要な建造物として指定されているもの。指定された7件のうち第3号から第6号までは、平成26（2014）年に重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物群を構成する建造物になったため、平成29（2017）年に指定解除になっている。現在の3件はいずれも、文化財保護法及び文化財保護条例により指定・登録されている。

番号	名称	所在地	所有者	備考
第1号	大英寺本堂・表門	松代地区	大英寺	県宝
第2号	松巖寺観音堂	鬼無里地区	松巖寺	市指定有形文化財
第3号	宿坊神原主屋	戸隠地区	個人	H29年指定解除
第4号	武井旅館主屋	戸隠地区	個人	H29年指定解除
第5号	横倉旅館主屋・門	戸隠地区	個人	H29年指定解除
第6号	久山館石垣	戸隠地区	個人	H29年指定解除
第7号	常德院 門	第二地区	個人	国登録有形文化財

#### 【景観重要建造物】

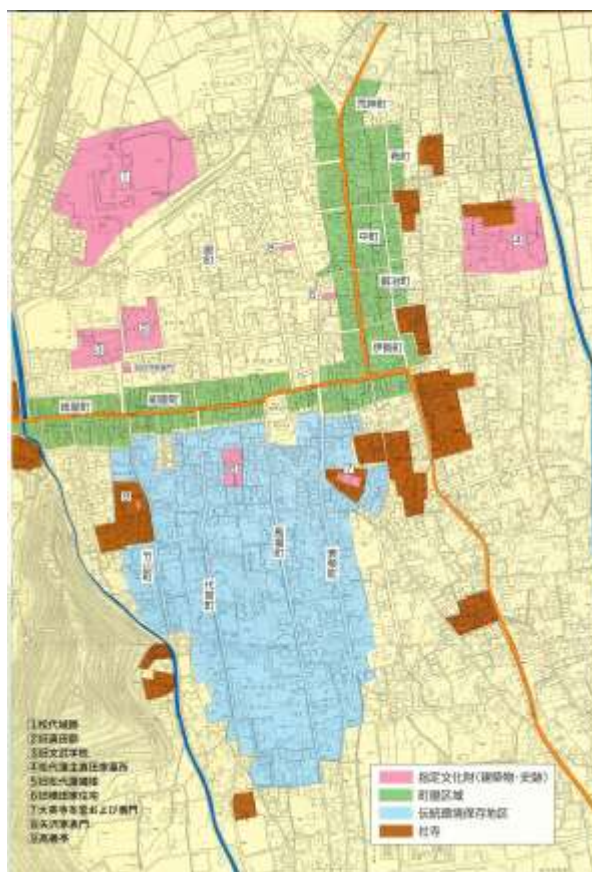
特色のある景観形成を特に推進する地区の景観形成上、維持・保全する価値があり、その地域のシンボリックな景観を生み出している建造物として、景観法に基づき、

長野市景観審議会の審議を経て指定されているもの。長野市には7件の建造物が指定されている。

	名称	所在地	備考
1	藤屋旅館	第二地区	国登録有形文化財
2	中澤時計本店	第二地区	国登録有形文化財
3	八田邸	松代地区	国登録有形文化財
4	西澤邸	若穂地区	
5	北村邸	若穂地区	国登録有形文化財
6	宿坊極意	戸隠地区	国登録有形文化財
7	越志旅館	戸隠地区	国登録有形文化財

**【長野市伝統環境保存区域内における伝統環境を構成している建造物等及びこれと一体をなす環境を保存するために特に必要と思われる物件】**

長野市伝統環境保存条例（以下、伝統環境保存条例）に基づき定められた長野市伝統環境保存計画により設定された保存区域内で伝統環境を構成している建造物、庭園、水路。長野市松代地区の表柴町・代官町・馬場町・竹山町が保存区域に設定されており、その区域内の江戸時代から明治時代に建てられた建造物、庭園、及び水路が指定を受けている。



**伝統環境保存区域の範囲**

**【伝統的工芸品】**

日常生活の中で古くから使われてきた品で、今もなお伝統的な原材料を使い、伝統的な技術・技法により手工業的に製造されている工芸品であり、国（経済産業大臣）指定と長野県（知事）指定の二種類がある。市内では信州竹細工、松代焼、信州手描友禅、信州組子細工の4件が長野県の指定を受けている。

このうち信州竹細工として山ノ内町の須賀川、伊那市美篁とともに指定を受けている戸隠の竹細工は、戸隠の山野に自生するチシマザサ（通称根曲がり竹）を材料

に作られるもので、その起源は不明ながら、山ノ内町の須賀川に、慶安年間(1648 - 1652)頃戸隠から須賀川に移住してきた徳武某<sup>とくたけなにがし</sup>ら3人によって竹細工が伝えられたとの記録が残されていることから、少なくともそれ以前から戸隠で作られていたことは確かである。根曲がり竹は茎が細くしなやかなため、細かな細工がしやすく丈夫なのが特徴で、農作業の道具としての箕<sup>み</sup>や籠<sup>かご</sup>はもとより、明治時代に入り養蚕が盛んになると蚕籠、現在では蕎麦ざるといったように、それぞれの時代の需要に合うように製品の形を変えながら作られ続けている。

## イ 既往調査等から抽出した未指定文化財

既往資料調査等により抽出した文化財のうち、指定等文化財を除いた未指定の文化財数は4,102件となる。下に地区別種類別数を示した。

地区別種類別未指定文化財数

地区	有形文化財								無形文化財	民俗文化財			記念物				伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計
	建造物	美術工芸品						有形の民俗文化財		風俗習慣	民俗芸能	遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物			
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書												
第一	2					129		9	4	9	6							159	
第二	9	28	2	2		196	1	1	9	8	5	1						262	
第三	1					53			5	1								60	
第四	5		2			37		4	2	1	1							52	
第五	2					7		5	2		3							19	
芹田	3		4			66	2			20	8							103	
古牧	23	4	5		3	5		2		43	9	4		13				111	
三輪	1					47				2	4	1						55	
吉田	2					9		1		10	6	2						30	
古里	22					15				7	7	6						57	
柳原						17				5	4							26	
浅川						7				18	7	2				1		35	
大豆島	10					18					3	4						35	
朝陽	1					18		1		9	8							37	
若槻	61		13			27		3			9	16						129	
長沼	26	1	2		2	2	24			3	7	6	15	3				91	
安茂里	15	3	26	2	1	119	5	20		15	5	4						215	
小田切	51		6			42	1			2			8	15		5		130	
芋井	2		16			19		2		27	6	1						73	
篠ノ井	44		5			1	114	6	21		20	28						239	
松代	79	20	12	7	2	1	125	1	27	1	22	11	10					318	
若穂	102	2	50	1		120	3	15		2	27	22	3	2		1		350	
川中島	26		3		1	87		2		1	21	20	3					164	
更北	44	7	5			149	1	1		19	14	5		1				246	
七二会	17		2			111				4	9	1						144	

地区	有形文化財									無形文化財	民俗文化財			記念物				伝統的建造物群	文化的景観	地区別合計	
	建造物	美術工芸品							有形の民俗文化財		無形の民俗文化財		遺跡	名勝地	植物	動物	地質鉱物				
		絵画	彫刻	工芸品	書跡	典籍	古文書	考古資料			歴史資料	風俗習慣									民俗芸能
信更	66		4			5		30		1		50	2							158	
豊野								94		1			8							103	
戸隠	28		7							4		6	21							66	
鬼無里	4	3	6					107		5		1	10	4	1					141	
大岡	37		1			1	85		4			2	3	1						134	
信州新町	3		223										4							230	
中条	1	1	122										6							130	
計	687	69	516	12	14	5	1877	20	129	1	25	352	256	74	26	32	1	6	0	0	4102

※空欄は物件なし（＝0件）を示す

### 【有形文化財（建造物）】

市域には、松代地区に松代城下町、第二地区に善光寺門前町、戸隠地区に戸隠神社の宿坊群といった、歴史的建造物が多く残されている町や、北国街道や松代道沿いの丹波島宿や善光寺宿、川田宿、長沼宿、神代宿などの旧宿場町に当時の面影を残す町並みが残されている。



麻煮の釜屋（信州新町）

町並みを形成する建物以外では、信州新町地区にある麻煮の釜屋などは、かつて盛んだった麻生産の様子を伝える貴重な建造物といえる。

建造物のうち石造物については、昭和50年代に郷土を知る会によって平成合併前の旧長野市域の所在調査が実施され、平成に入り合併した豊野町、鬼無里村、戸隠村、中条村、信州新町については旧町村時代に悉皆調査が行われている。また大岡村については、合併後に長野市立博物館で悉皆調査を行った。

市域の石造物の中で特徴的なものに、徳本行者の六字名号塔がある。独特の書体で「南無阿弥陀仏」と刻まれ、脇に「徳本」の名が刻まれた石碑のことだが、これは近世の念仏行者徳本(1758-1818)が念仏行の布教に用いた六字名号札を石碑に刻んだもので、その数は市域で96基にのぼる。そのほとんどが、徳本行者が念仏教化のために



徳本名号塔（更北法蔵寺）

市域を訪れた文化 13(1816)年の年号を刻んでおり、徳本行者の巡錫がこの地に与えた影響の大きさを物語っている。

### 【有形文化財（美術工芸品～絵画）】

第二地区善光寺大勧進には14世紀から15世紀の作とされる絹本著色文殊菩薩像や五代力菩薩像、日枝山王曼陀羅図など貴重な絵画資料が所蔵されている。このほか市域の社寺を中心に仏画等が多く残されていると想定されるが、悉皆調査等が行われていないため、現在のところその全容は不明である。

### 【有形文化財（美術工芸品～彫刻）】

市域には古社寺が多く存在し、そこに祀られている神仏像にも古いものがみられるが、昭和9(1934)年に更埴教育会の主催で日本美術史家の源豊宗を招いて実施した仏像調査以降、市域全体を対象とした調査が行われていないため、その全容は把握できていない。また、



長谷川政七作 弘法大師（鬼無里）

時代は下るが、近世に第四地区の新田町近辺で善光寺仏師を名乗り活動していた、長谷川姓の仏師の手による仏像が各所に残されている。このほか、鬼無里・中条地区にまたがる虫倉山を拠点に山岳修行をしていた木食聖の一派が修行の一環として作った仏像が、虫倉山周辺地域の社寺や家庭に残されている。これらは、木片などから作られた素朴な仏像で、主な製作者であった木食山居の名前から山居仏と呼ばれ親しまれている。

### 【有形文化財（美術工芸品～工芸品）】

松代地区にその数が多いのは、松代藩主真田家の大名道具を所蔵する真田宝物館があるためで、能装束や蹴鞠道具といった文化財が残されている。善光寺のある第二地区には大勧進に刺繍阿弥陀三尊来迎図(16世紀)が所蔵されている。繡仏の阿弥陀来迎図は、鎌倉～室町時代頃に庶民の間に広がった浄土信仰の隆盛に合わせて多くつくられたが、現存するものは少なく、県内では唯一のものである。

### 【有形文化財（美術工芸品～書跡・典籍）】

書跡としては佐久間象山筆の蚊里田八幡宮幟旗、勝海舟筆の南高田伊勢神社幟旗、化政期に活躍した小布施町出身の文化人、高井鴻山筆の川中島養蚕神社幟旗など著名人が揮毫した幟旗が市域各神社に残されている。

典籍としては、親鸞聖人絵伝や鬼女紅葉狩の図（いずれも市指定文化財）も所蔵する長沼地区の西巖寺に、源氏物語五十四帖や一条兼良書住吉物語が残されている。また、古牧地区の光蓮寺には、永享11(1439)年に当時の住職が京都本願寺に参詣した際に授かった蓮如上人御染筆の奥書のある聖教が残されている。



蚊里田八幡宮七反幟

### 【有形文化財（美術工芸品～古文書）】

古文書は過去の『長野県史』や『長野市誌』、また市域の旧町村史等の文献から抽出したところ、1,877件にのぼった。しかし過去の文献に掲載されている古文書は、それが属する古文書群の中から選定されたものである場合が多く、母体となる古文書群を含めれば、実際の所在数は相当の数にのぼると思われる。抽出した古文書の時代は近世のものがほとんどである。数の多い文書群としては第二地区の大勧進と大本願に所蔵されている善光寺関係の文書群などがある。これらの古文書は現在、長野市立博物館や長野市公文書館といった公的機関に寄贈・寄託されているものが多いが、個人所有のものもある。個人所有のものについては、現在所在の確認が取れていないものがほとんどであり、災害等で人知れず滅失してしまう危険も高いため、公的機関への寄贈・寄託を働きかけていく必要がある。

また、過去の文献からは見いだせなかったが、戸隠地区にある戸隠神社とその宿坊群には戸隠神社の歴史を物語る多くの古文書が残されている。これまではほとんど調査されてこなかった戸隠の文書群だが、現在、地元所有者と研究者による調査と整理が始められたところであり、今後戸隠の詳細な歴史が明らかになっていくと思われる。

### 【有形文化財（美術工芸品～考古資料）】

飯綱高原の上ヶ屋遺跡（芋井地区）からは、後期旧石器時代（ナイフ形石器文化期）の関東・中部地域（茂呂系）、東北・北陸地域（杉久保系）、近畿・瀬戸内地域（国府系）、それぞれの技術系譜をひく石器が出土した。縄文時代では、旭町遺跡（第一地区）出土のタカラガイ形土製品や宮崎遺跡（若穂地区）出土のサメ椎骨製耳飾など、内陸部と海浜部との交流を示す資料が出土している。弥生時代後期後半では、赤色塗彩された箱清水式土器（通称「赤い土器」）が長野盆地を中心に千曲川流域に広く分布して文化圏をなす。同時期の環濠集落である水内坐一元神社遺跡（柳原地区）からは、棘状装飾と赤色塗彩が施された木盾が出土している。また、

浅川端遺跡（吉田地区）からは、三世紀代に日本列島に渡来したと考えられる馬形帯鉤が出土し、注目される。古墳時代では、長野盆地における古墳出現期に遡るとされる和田東山3号墳（若穂地区）の発掘調査により、未盗掘の竪穴式石室から内行花文鏡、大刀、鉄剣、鉄槍、鉄鏃、鉄斧などの副葬品が出土した。松ノ山窯跡（信更地区）からは県内最古級である6世紀初頭の須恵器窯が見つかり、須恵器や窯道具などが出土している。平安時代では古代斗女郷の中心と目される南宮遺跡（篠ノ井地区）から、瑞花双鳳八稜鏡や「宗清」銘の陶印、石帯（巡方、丸軻）、緑釉陶器など有力者の存在を示す遺物が多数出土した。中世では、有力国人・栗田氏の館跡とされる栗田城跡（芹田地区）から、善光寺式阿弥陀仏の小銅仏が出土している。

### 【有形文化財（美術工芸品～歴史資料）】

歴史資料としては、長野市立博物館の市内絵馬所在調査（平成19年～平成21年）により、市域に近世～戦前にかけての絵馬が約200点所在していることが分かっている。

その中には隠滝不動（芋井地区）の養蚕作業図絵馬や、各地にみられる裁縫絵馬など当時の生業・生活の様子が窺えるものや、妻科神社（第四地区）の御柱祭行列図絵馬や犀川神社（安茂里地区）の山王神社祭礼図絵馬など当時の祭礼の様子を伝えるものなどがある。また祝神社（松代地区）の夔の神図絵馬は、近世後期に魔除け疫病除けの利益で信仰を得た山梨岡神社の御神体を描いたもので、夔の神の信仰が市域にも伝わっていたことを示す貴重な文化財である。



夔の神図絵馬（松代 祝神社）

### 【無形文化財（伝統工芸）】

市域の伝統工芸には、根曲がり竹を使った戸隠地区の竹細工、松代地区の光沢のある青緑色が特徴の松代焼のほか、手描き友禅や組子細工などがあり、いずれも県の伝統的工芸品に指定されている。



松代焼

### 【民俗文化財（有形の民俗文化財）】

市域の有形の民俗文化財としては、善光寺門前町（第一地区から第五地区）の各町で所蔵している祭り屋台がある。これらの屋台は、上西之門町（第二地区）に

る弥栄神社で7月に行われる祇園祭のときに曳き出される。文政年間(1818-1831)につくられた「善光寺祭礼図巻」(真田宝物館蔵)には、各町の屋台が善光寺門前を巡行する様子が描かれているが、その頃の屋台は弘化4(1847)年の善光寺地震により西町上組の屋台を残し、全て焼失あるいは損壊してしまった。現在の屋台は弘化の地震以降のものであり、その多くは幕末から明治、大正にかけて新造されている。新造された屋台は、ちょうどその頃各地の社寺彫刻を手掛けていた妻科村(第四地区)の宮大工山崎儀作の手になるものが多く、柱や天井に多数の彫刻が施されている。

表 善光寺門前町で所有している屋台

地区	町名	屋台の種類	製作年	製作者	保存状況
第一	桜枝町	本屋台	明治28年	山崎儀作	解体保存
	西町上	本屋台	寛政5年	—	組立展示
	西之門町	踊り屋台	明治26年	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
第二	元善町	本屋台	江戸末~明治初期	山崎儀作	解体保存
		踊り屋台	大正8年	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
	岩石町	踊り屋台	—	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
	東町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	大門町	踊り屋台	大正3年頃	—	解体保存
		底抜け	—	—	解体保存
本屋台	明治30年	山崎儀作	解体保存		
第三	問御所町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	権堂町	二階建て	大正5年	和田三郎次	解体保存
	南千歳町	本屋台	昭和5年	—	解体保存
	上千歳町	踊り屋台	昭和初期	—	解体保存
	緑町	本屋台	明治初期	北村喜代松一門	組立展示
第四	西後町	本屋台	明治5年	山崎儀作	組立展示
	新田町	踊り屋台	大正13年	—	解体保存
		本屋台	平成30年	—	組立展示
第五	南石堂町	踊り屋台	昭和12年	—	解体保存
	北石堂町	本屋台	昭和11年	—	解体保存

(「長野市歴史的風致維持向上計画」掲載の表を基に作成)

## 【民俗文化財（無形の民俗文化財）】

文献から市域社寺の祭礼や年中行事、講行事を拾い上げた結果、352 件にのぼったが、全てが現在も継続して行われているかは不明である。ここでは現在も行われている風俗習慣に関わる文化財を紹介する。

### 1. 風俗習慣

(北信流) 市域を中心に北信濃にしかみられない風習として北信流があげられる。北信流とは、酒宴の途中、年配者の発言によって酒宴の主催者と主賓が宴席の中心に進み、相対して杯を酌み交わすというもので、杯を酌み交わす間、肴と称して謡が謡われるのが特徴である。北信流が行われると用事のある参加者は退席ができるとして、酒宴の中締めの意味もある。北信流で重要なのが肴と称する謡である。北信流は、明治以降にこの地域に広まったものだが、当時は肴を出すよう突然振られても良いように、謡の一つ二つは覚えているのが当たり前とされ、農家の男性は嗜好として冬の農閑期などを利用し謡曲の師匠について謡を習った。このような風習が市域を中心に広まったのは、近世松代藩の武士階級に広まっていた謡が近代に入って民衆に広まったことによる。その範囲は松代藩領をこえて北信濃一帯にわたったため、北信濃の別称である「北信」の名を冠して北信流と呼ばれる。



北信流

### 2. 民俗芸能

(獅子舞) 民俗芸能については、平成 30(2018)年に文化芸術課が全市を対象にアンケート形式で「地域のお祭り調査」を実施しており、特に獅子舞については各地の現状が把握されている。獅子舞は全市にわたって保存会等により継承されており、その数は 256 組にもものぼる。地区によっては小さな組単位で獅子舞を継承しているところもある。

(絵解き) このほか市域を特徴づける芸能に絵解きがある。絵解きは、仏画を用いて社寺の縁起や仏教説話などを説明する文芸の一つである。市域では、県宝の善光寺如来絵伝を所蔵しその絵解きを行う第二地区の淵之坊や、第一地区の往生寺、第五地区の西光寺など善光寺近辺の寺院で絵解きが行われている。



西光寺の絵解き

往生寺と西光寺では、両寺とも刈萱親子の伝承が伝わるところから、往生寺では「刈萱親子御絵伝」(2幅)、西光寺では「刈萱道心石童丸御親子御絵伝」

(2幅)を用いて刈萱道心と石童丸親子の物語を口演<sup>こうえん</sup>している。西光寺では「六道地獄図」(6幅)の絵解きも行っている。このほか、現代ではほとんど見られなくなった絵解きを掘り起こし、広めるため、地元の郷土史研究団体(長野郷土史研究会)によって、善光寺如来絵伝や涅槃<sup>ねはんず</sup>図などの絵解きも行われている。

## 【食文化】

近世以降、市域の平地部では米と麦の二毛作が、山間部でも麦や蕎麦の栽培が行われていたため、「うどん」・「そば」・「おやき」といった粉食が発達した。作り方も麺を短めに平たくして、もろもろの野菜と一緒に煮込む「おぶっこ」や、あらかじめ野菜等を入れて煮た煮汁の中に、投げ籠<sup>わん</sup>に入れたそうめんを浸し、一杯分の椀の中に煮汁と合わせて入れて食す「おとうじ」などバラエティーに富む。「おやき」は、小麦粉を水で練った生地<sup>あん</sup>に餡となる具材を載せて包んで蒸す、あるいは焼いたもので、餡の具材にはこの地で獲れる丸茄子や野沢菜、切り干し大根が使われることが多い。かつては米食の間を埋める代用食として各家庭で日常的に作られていたが、現在では県を代表する郷土食として広く知られるようになった。

市域の西部中山間地を含む西山<sup>にしやまちほう</sup>地方と呼ばれる地域では、冠婚葬祭の際に「えご」と呼ばれる食べ物が出される。「えご」はエゴグサと呼ばれる海藻の煮凝りのことで、羊羹<sup>ようかん</sup>状に固めた後、刺身状にして出される。これを酢味噌などにつけて食す。「えご」の味は無味に近く、磯<sup>いそ</sup>の風味が強い。隣県の新潟では日常食として食べられるのに対し、長野市ではハレの料理として食べられることや、煮凝りの際にあえて濾さずに磯の風味を強く出した方が好まれるなどといったところは、山国ならではの習慣といえる。

季節の風物詩として春先に食べられるのが根曲がり竹のタケノコである。根曲がり竹とは厳寒地に自生するチシマザサの若竹のことで、積雪が多く厳しい寒さの戸隠地区に多くみられる。市域では根曲がり竹のタケノコの時期になると、缶詰の鯖の水煮と一緒に味噌汁にして食す。そのため、この時期はスーパーマーケットなどで鯖の水煮缶が山高く積まれる光景がみられる。



えご

## 【記念物（遺跡）】

周知の埋蔵文化財包蔵地以外で文献から抽出した遺跡には、曾我物語の主人公曾我兄弟とその恋人の虎御前にゆかりがあると伝えられている古里地区の曾我塚と虎

塚や、弘化4（1847）年の善光寺地震後の洪水により塚の中から即身仏が現れたため、祠が建てられた川中島地区の行人塚跡、同じく川中島地区にある木曾義仲の重臣今井兼平の墓とされる五輪塔など、謂れやものがたりを持つものが多い。今井兼平の墓とされる五輪塔には幾筋もの削り跡が見られるが、これはかつて兼平の墓に生える苔が病に効くと信じられ、石ごと削り取られたためである。

### 【記念物（名勝地）】

名勝地として小田切地区の<sup>おたぎり</sup>小田切八景は、明治44(1911)年に地元住民が滋賀県の近江八景にちなみ、地元の名勝地を八つ選定したもので、<sup>りょうくんぼし</sup>両郡橋、<sup>みかまど</sup>三竈神社、富士の塔などがあげられている。このほか長沼地区で選定した長沼十二景と呼ぶ12か所の名勝地などがある。

### 【記念物（動物・植物・地質鉱物）】

動物では若穂地区の<sup>あなみずふどう</sup>穴水不動に生息するクロサンショウウオ、植物では市域の神社の御神木（多くがケヤキ）や、小田切地区にあるヒカゲツツジ、ヤマシャクヤク、スズランといった植物の群生地などがある。また、地質鉱物では、明治4（1871）年に日本で最初の商業生産が行われた浅川地区の<sup>ゆせい</sup>油井（石油井戸）や、江戸時代の紀行文に地獄の火として紹介された小田切地区の天然ガス、昭和まで<sup>ほくど</sup>白土の名で精米の<sup>すそぼなぎょうかいがん</sup>搗き粉や磨き粉として利用されていた小田切・安茂里地区の裾花凝灰岩など、人々の暮らしと結びついたものが見られる。



浅川の石油井戸



安茂里の裾花凝灰岩

## ウ 埋蔵文化財

市域には埋蔵文化財包蔵地が現在確認されているところで1,112か所を数える。これを地区別にまとめたのが下の表になる。地区別に見ると、包蔵地数が100件以上のところが松代・篠ノ井・若穂・豊野地区で、これらの地区は、多くの指定文化財が所在する地区でもある。また、遺跡の種類別にみると古墳が群を抜いて多く、以下、城館跡、集落跡と続く。

周知の埋蔵文化財包蔵地件数一覧

	古墳	城館跡	集落跡	生産地	墳墓	社寺跡	祭祀跡	散布地	その他	計
第一	1	1	3							5
第二	21	3	5			1		1		31
第三・第四			1							1
第四		1	1					1		3
第一・第二・第三・第四			1							1
芹田		6	5					2		13
古牧	1	5	4					3		13
古牧・芹田								1		1
三輪		2	6					3		11
吉田		6	12					4		22
古里	3	1	4				1	5	1	15
柳原		2	4					3		9
浅川	7	3	4					14		28
朝陽		2	3					1		6
柳原・朝陽								1		1
若槻	12	8	18	3				29	1	71
浅川・若槻・吉田・三輪・第二								1		1
長沼		3								3
安茂里	34	9	3		1			10		57
小田切	2	5						8		15
芋井		4		1			1	16		22
篠ノ井	56	21	19	2		1		28		127
松代	98	16	8	5	2	1	1	25		156
若穂	66	12	9	1	1			30		119
川中島		4			1			3		8
更北		4	3					3		10
更北・川中島			1							1
七二会		9	1					11		21
信吏	14	8	1	9				38		70
豊野	30	4	4	6	6	6		48	1	105
戸隠		17				2	1	20	1	41
鬼無里		1						14	1	16
大岡	1	2	1					19		23
信州新町	3	16	6		3			33		61
中桑		3	1		3			18		25
計	349	178	128	27	17	11	4	393	5	1112

時代別に挙げると、旧石器時代の遺跡の多くは山間地に分布し、飯綱高原の上ヶ屋遺跡（芋井地区）では発掘調査が行われている。縄文時代では草創期から早期の遺跡が山間部に分布するのに対し、前期後半以降は沖積地や千曲川自然堤防上へ集落が展開する。主な遺跡として、早期の鍋久保遺跡（大岡地区）、前期後半の上浅野遺跡（豊野地区）、松ノ木田遺跡（浅川地区）、中期の檀田遺跡（若槻地区）、旭町遺跡（第一地区）、前期後半から後期の松原遺跡（松代地区）、中期後半から晩期の宮遺跡（中条地区）、宮崎遺跡（若穂地区）などがある。



宮遺跡

弥生時代は千曲川の後背湿地を利用した水稲がはじまり、自然堤防上に大規模な集落が展開する。後期になると環濠集落や周溝墓がつくられる。代表的な遺跡として、千曲川自然堤防上の塩崎遺跡群（篠ノ井地区）、松原遺跡（松代地区）などがあり、扇状地上の遺跡としては箱清水遺跡（第二地区）、吉田高校グランド遺跡（吉田地区）などがある。古墳時代になると、一定の規範の下に有力者の墓である古墳が築かれる。4世紀から5世紀中頃にかけては、地域を統べる首長墓として川柳将軍塚古墳（篠ノ井地区）、土口将軍塚古墳（松代地区）といった90～50m規模の前方後円墳が盆地を見下ろす尾根上に築かれるが、5世紀後半になると前方後円墳は築造されなくなり、大室古墳群（松代地区）や吉古墳群（若槻地区）のように中型から小型の円墳を中心とした群集墳が造られる。特に、大室古墳群を中心とする千曲川右岸一帯には、積石塚や合掌形石室といった特殊な古墳が集中する。奈良・平安時代以降では、盆地内の微高地を選び、多くの集落が営まれる。中でも、オリンピックスタジアム建設にあたり調査された南宮遺跡（篠ノ井地区）では、千軒を超える住居址とともに陶印や八稜鏡など貴重な遺物が出土し、古代斗女郷の中心的集落と目される。中世には在地の国人層によって居館や山城が多く築かれる。山城は長野盆地一帯で200近く確認されており、旭山城、葛山城など、川中島の戦いに関わるものも多い。